

第 8 4 期 貸 借 対 照 表

(2026年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	18,763,420	流 動 負 債	8,703,305
現 金 ・ 預 金	7,455,527	トレーディング商品	0
預 託 金	5,900,000	デリバティブ取引	0
顧客分別金信託	5,900,000	信用取引負債	828,104
トレーディング商品	970,692	信用取引借入金	509,348
商品有価証券等	970,692	信用取引貸証券受入金	318,756
約定見返勘定	1	預 り 金	7,023,547
信用取引資産	3,365,768	顧客からの預り金	4,918,520
信用取引貸付金	2,997,027	その他の預り金	2,105,027
信用取引借証券担保金	368,741	受 入 保 証 金	331,497
立 替 金	532,614	前 受 金	1,517
短期貸付金	5	前 受 収 益	207
前 払 金	13	未 払 金	109,248
前 払 費 用	5,960	未 払 費 用	198,993
未 収 入 金	322,331	未 払 法 人 税 等	33,888
未 収 収 益	210,504	賞 与 引 当 金	176,300
固 定 資 産	18,157,875	固 定 負 債	4,227,447
有 形 固 定 資 産	3,116,951	繰 延 税 金 負 債	3,697,624
建 物	1,665,096	退職給付引当金	432,076
器 具 備 品	248,071	役員退職慰労引当金	97,745
土 地	1,203,783	特別法上の準備金	23,428
無 形 固 定 資 産	66,204	金融商品取引責任準備金	23,428
電 話 加 入 権	1,769	負 債 合 計	12,954,180
ソ フ ト ウ ェ ア	64,434	純 資 産 の 部	
投資その他の資産	14,974,719	株 主 資 本	15,791,682
投資有価証券	14,723,158	資 本 金	4,374,330
出 資 金	2,240	資 本 剰 余 金	3,305,040
長期差入保証金	210,260	資 本 準 備 金	3,305,040
長期前払費用	39,061	利 益 剰 余 金	8,112,311
		利 益 準 備 金	450,000
		その他利益剰余金	7,662,311
		別 途 積 立 金	5,968,000
		繰越利益剰余金	1,694,311
		評価・換算差額等	8,175,432
		その他有価証券評価差額金	8,175,432
資 産 合 計	36,921,295	純 資 産 合 計	23,967,114
		負 債 ・ 純 資 産 合 計	36,921,295

第 8 4 期 損 益 計 算 書

(2025年4月1日から
2026年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
営 業 収 益		3,461,795
受 入 手 数 料	3,305,331	
ト レ ー デ ィ ン グ 損 益	28,718	
金 融 収 益	127,745	
金 融 費 用		11,362
純 営 業 収 益		3,450,432
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費		4,453,089
取 引 関 係 費	655,964	
人 件 費	2,532,503	
不 動 産 関 係 費	270,184	
事 務 費	692,793	
減 価 償 却 費	141,701	
租 税 公 課	88,676	
そ の 他	71,266	
営 業 損 失		1,002,657
営 業 外 収 益		556,745
受 取 配 当 金	466,295	
そ の 他	90,450	
営 業 外 費 用		12,482
経 常 損 失		458,393
特 別 利 益		637,473
固 定 資 産 売 却 益	1,312	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	636,161	
特 別 損 失		224,158
和 解 損 失	69,390	
固 定 資 産 除 却 損	40	
撤 去 費 用	152,266	
減 損 損 失	2,461	
税 引 前 当 期 純 損 失		45,078
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	12,335	
法 人 税 等 調 整 額	7,361	19,696
当 期 純 損 失		64,775

第84期株主資本等変動計算書

(2025年4月1日から
2026年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本			
	資 本 金	資 本 剰 余 金		
		資 本 準 備 金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	4,374,330	3,305,040	—	3,305,040
事業年度中の変動額				
当 期 純 利 益				
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）				
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	4,374,330	3,305,040	—	3,305,040

	株 主 資 本				
	利 益 剰 余 金				株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計	
		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	450,000	5,968,000	1,759,086	8,177,086	15,856,457
事業年度中の変動額					
当 期 純 利 益			△64,775	△64,775	△64,775
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）					
事業年度中の変動額合計	－	－	△64,775	△64,775	△64,775
当期末残高	450,000	5,968,000	1,694,311	8,112,311	15,791,682

	評 価 ・ 換 算 差 額 等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	7,111,760	7,111,760	22,968,217
事業年度中の変動額			
当 期 純 利 益			△64,775
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）	1,063,672	1,063,672	1,063,672
事業年度中の変動額合計	1,063,672	1,063,672	998,897
当期末残高	8,175,432	8,175,432	23,967,114

個 別 注 記 表

当社の計算書類は、「会社計算規則」(2006年法務省令第13号)の規定のほか、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(2007年内閣府令第52号)及び「有価証券関連業経理の統一に関する規則」(1974年11月14日日本証券業協会自主規制規則)に準拠して作成しております。

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) トレーディング商品の評価基準及び評価方法

売買を目的として自己の計算において保有する有価証券、有価証券に準ずる商品、デリバティブ取引、外国通貨等の売買取引をトレーディングと定め、それらトレーディング商品に属する有価証券及びデリバティブ取引等については時価法を採用しております。

(2) トレーディング商品に属さない有価証券、その他の商品の評価基準及び評価方法

トレーディング商品に属さない有価証券、その他の商品は時価法、取得価額との評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。また、市場価格のない株式等については移動平均法による原価法によっております。

(3) 固定資産の減価償却の方法

有 形 固 定 資 産…… 定率法を採用しております。なお、建物については、定額法を採用しております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建 物	6～50年
器具備品	3～20年

無 形 固 定 資 産…… 定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

長 期 前 払 費 用…… 均等償却しております。

(4) 引当金の計上基準

貸 倒 引 当 金…… 貸付金等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞 与 引 当 金…… 従業員に対する賞与の支払に備えるため、会社所定の計算方法による支給見込額を計上しております。

役 員 賞 与 引 当 金…… 役員に対する賞与の支払に備えるため、当事業年度における支給見込額を計上しております。

退 職 給 付 引 当 金…… 従業員の退職に伴う退職金の支払に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度において発生していると認められる額を計上しております。

役員退職慰労引当金 …… 役員に対する退職慰労金の支払に備えるため、内規に基づく当事業年度末における支給見積額を計上しております。

金 融 商 品 取 引 責 任 …… 証券事故による損失に備えるため、金融商品取引法第46条の5の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」第175条に定めるところにより算出した額を計上しております。

(5) 収益に関する計上基準

当社は、主に顧客への金融サービス提供から生じる報酬および手数料により、収益を獲得しております。これらのサービスのうち主要なものとは、委託売買業務、引受業務、募集・売り出し業務が該当します。

委託売買業務については約定日に収益が認識されます。

引受業務、募集・売り出し業務については当該業務の完了時点で収益が認識されます。

(6) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

2. 会計上の見積りに関する注記

固定資産の減損

会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

有形固定資産 3,116,951 千円

無形固定資産 66,204 千円

減損損失 2,461 千円

固定資産の減損損失計上の判断は、将来の不確実性を考慮して見積った割引前将来キャッシュ・フロー等を基に行っております。当該見積りは、千葉県内外の景気動向、当社の経営状況の変動等の予測困難な不確実性の影響を受ける可能性があり、将来の業績見通し等が変化した場合は、翌事業年度に係る計算書類における減損損失の金額に重要な影響を及ぼす可能性があります。

3. 貸借対照表に関する注記

- (1) 担保に供している資産及びこれに対応する債務
- | | |
|-----------|-----------|
| 投資有価証券 | 903,250千円 |
| 上記に対応する債務 | |
| 信用取引借入金 | 509,348千円 |
- (2) 有形固定資産の減価償却累計額 866,017千円
- (3) 関係会社に対する金銭債権・金銭債務
- | | |
|--------|-------------|
| 短期金銭債権 | 1,876,657千円 |
| 長期金銭債権 | 10,256千円 |
- (4) 差し入れた有価証券等の時価額〔上記(1)に属するものを除く〕
- | | |
|---------------|-------------|
| 信用取引貸証券 | 360,790千円 |
| 信用取引借入金の本担保証券 | 476,650千円 |
| 差入保証金代用有価証券 | 1,133,554千円 |
| 長期差入保証金代用有価証券 | 87,520千円 |
- (5) 差し入れを受けた有価証券等の時価額
- | | |
|---------------|-------------|
| 信用取引貸付金の本担保証券 | 2,752,011千円 |
| 信用取引借証券 | 354,124千円 |
| 受入保証金代用有価証券 | 8,593,498千円 |

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高	
営業取引	
営業収益	31,412千円
販売費・一般管理費	385,602千円
営業取引以外の取引	
営業外収益	376千円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

- | | | | |
|-----|------------------------|------|-------------|
| (1) | 当事業年度の末日における発行済株式の数 | 普通株式 | 29,399,121株 |
| (2) | 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項 | | |
| | 該当事項はありません。 | | |
| (3) | 当事業年度後に行う剰余金の配当に関する事項 | | |
| | 該当事項はありません。 | | |

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産

減価償却費	23,559千円
退職給付引当金	135,672千円
役員退職慰労引当金	30,692千円
金融商品取引責任準備金	7,356千円
減損損失	55,758千円
賞与引当金等	64,336千円
資産除去債務	4,786千円
繰越欠損金	117,287千円
その他	20,435千円
繰延税金資産小計	459,886千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	△117,287千円
将来減算一時差異の合計に係る評価性引当額	△298,116千円
評価性引当額小計	△415,403千円
繰延税金資産合計	44,483千円

繰延税金負債

その他有価証券評価差額金	△3,742,107千円
繰延税金負債合計	△3,742,107千円
繰延税金負債の純額	△3,697,624千円

7. 収益認識に関する注記

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

営業収益

受入手数料	3,305,331	千円
委託手数料	1,658,920	千円
株式	1,622,676	千円
受益証券	36,243	千円
引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料	2,142	千円
株式	442	千円
債券	1,700	千円
募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料	547,323	千円
株式	787	千円
債券	2,573	千円
受益証券	543,962	千円
その他の受入手数料	1,096,945	千円
株式	3,426	千円
債券	623	千円
受益証券	895,518	千円
その他	197,377	千円
トレーディング損益	28,718	千円
金融収益	127,745	千円
営業収益合計	3,461,795	千円

(注)1 収益の分解情報は損益計算書の収益を基礎としております。

(注)2 トレーディング損益及び金融収益は、顧客との契約から生じる収益以外の収益であります。

(注)3 収益を理解するための基礎となる情報は、「1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(5) 収益に関する計上基準」に記載の通りであります。

8. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社の主たる事業は、有価証券の売買及び売買等の委託の媒介、有価証券の引受け及び売出し、有価証券の募集及び売出しの取扱い、その他の金融商品取引業務であり主に国内金融市場で総合的な金融サービスを提供しております。

当社は、顧客との取引が活発になるほど信用取引貸付金の増加、トレーディング商品の増加等により営業活動の資金需要は増加します。これらの事業を行うため、必要な資金等については、自己資金又は銀行借入等により調達しております。また、一時的な余資は安全性の高い短期的な預金及びコールローン等による運用に限定して行っております。デリバティブ取引は、主にオプション取引と外債の販売に伴う為替予約取引であり、投機的な取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する金融資産の主なものは、国内の個人等に対する信用取引資産であり、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。投資有価証券は株式であり、事業推進目的で保有しております。また、預託金は金融商品取引法に基づく顧客資産の分別金信託額であります。これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。

金融負債の主なものは、預り金、信用取引負債、受入保証金であります。預り金は主に顧客との取引に伴い発生する一時的な口座残金であります。信用取引負債は顧客の売建金額及び証券金融会社から融資されている買建金額であります。証券金融会社から融資されている金額については、極力自己資金との差替え（自己融資）を実施し、支払利息の削減に努めております。また、受入保証金は顧客の信用取引や先物取引に伴い受入れている担保金であります。

デリバティブ取引は、主にオプション取引と外債の販売に伴う為替予約取引であります。デリバティブ取引は、他の市場性取引と同様に、市場リスク、信用リスクに晒されています。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

イ. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

信用リスクに対しては、「資産自己査定規程」等により、適正な償却・引当を実施するとともに、「信用リスク管理規程」等により、厳正な信用リスク管理を実施しております。組織面では、コンプライアンス部が厳正な審査、継続的なモニタリング等により、相手先ごとに残高管理し、状況悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。各管理部署は、リスクの状況、管理方法・問題点を定期的または随時取締役社長に報告しております。

ロ. 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

市場リスクに対しては、「市場関連リスク管理規程」等により、厳正な市場リスク管理体制を構築しております。組織面では、業務統括部業務支援グループは時価損益の算出を、経営企画部総務財務グループは損益等の検証・管理を、コンプライアンス部は取引手続きの遵守状況の管理を実施しております。各管理部署は、リスク額、ポジション・評価損益等の状況を定期的または随時取締役社長に報告しております。

ハ. 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

流動性リスクに対しては、「流動性リスク管理規程」等により、厳正な流動性リスク管理体制を構築しております。組織面では、経営企画部総務財務グループは日々の資金繰り管理・運営と状況の分析・モニタリング等の適切な管理を実施しております。管理部署は、リスクの状況、管理方法・問題点を定期的または随時取締役社長に報告しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(2) 金融商品の時価に関する事項

2026年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
① 現金・預金	7,455,527	7,455,527	—
② 預託金	5,900,000	5,900,000	—
③ 商品有価証券等及び投資有価証券			
売買目的有価証券	970,692	970,692	—
其他有価証券(※1)	14,715,678	14,715,678	—
④ 信用取引資産	3,365,768	3,365,768	—
⑤ 立替金	532,614	532,614	—
資産計	32,940,281	32,940,281	—
① 信用取引負債	828,104	828,104	—
② 預り金	7,023,547	7,023,547	—
③ 受入保証金	331,497	331,497	—
負債計	8,183,149	8,183,149	—
デリバティブ取引(※2)	(0)	(0)	—

(※1) その他有価証券には、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日)第24-9項の基準価額を時価とみなす取扱いを適用した投資信託が含まれております。当該取扱いを適用した投資信託の貸借対照表計上額は 2,799,376千円であります。

(※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計での正味の債務となる項目については、() で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

① 現金・預金、② 預託金、④ 信用取引資産、⑤ 立替金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

③ 商品有価証券等及び投資有価証券

これらの時価について、株式は金融商品取引所の終値、債券は主に日本証券業協会が公表する売買参考統計値(平均)及び業者間気配を参考にした価格によっております。投資信託は取引金融機関から提示された基準価額等によっております。

負 債

① 信用取引負債、② 預り金、③ 受入保証金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

為替予約取引

為替予約取引の時価の算定方法については、先物為替相場によっております。

(注2) 非上場株式等(貸借対照表計上額7,480千円)については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日)第5項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

9. 関連当事者との取引に関する注記

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の被所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	㈱千葉銀行	千葉市中央区	145,069	銀行業	直接 100%	預金取引、 有価証券売買の受託	預金取引 (純額)	362,219	現金・預金	1,876,657
							有価証券 売買受託 収入	18,784	—	—

取引条件の決定方針

(注)1 当社と関係を有しない他の当事者と同様の取引条件等によっております。

(注)2 取引金額には、消費税等は含まれておりません。

10. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額 815円 23銭

1株当たり当期純損失 2円 20銭

(注) 1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

損益計算書上の当期純損失	64,775千円
普通株主に帰属しない金額	一千円
普通株式に係る当期純損失	64,775千円
普通株式の期中平均株式数	29,399千株

11. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

12. その他の注記

減損損失

当社は、当事業年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用途	場所	種類	減損損失額 (千円)
営業店	本店営業部（千葉県千葉市）	器具備品	2,461

当社における資産のグルーピングは、営業店舗につきましては営業店毎に継続的な収支の把握を行っていることから各営業店を、遊休資産につきましては各資産を、グルーピングの最小単位としております。また、本社等につきましては複数の資産グループのキャッシュ・フロー生成に寄与することから共用資産としております。

・営業店

当事業年度において、経営環境の悪化により、資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は備忘価額としております。

以上